

小さな「人の繋がり」から踏み出すファーストステップ

～自主研修グループ 日向市土木技術研究会「ひむかどぼくらぼ」の挑戦～

インフラメンテナンス九州フォーラム2026 第3部パネルディスカッション

日向市自主研修グループ 日向市土木技術研究会「ひむかどぼくらぼ」

代表 米良 成功

① 自主研修グループの概要

市独自の支援制度を活用し、令和7年度から若手土木技術職員17名で有志の「ひむかどぼくらぼ」を発足

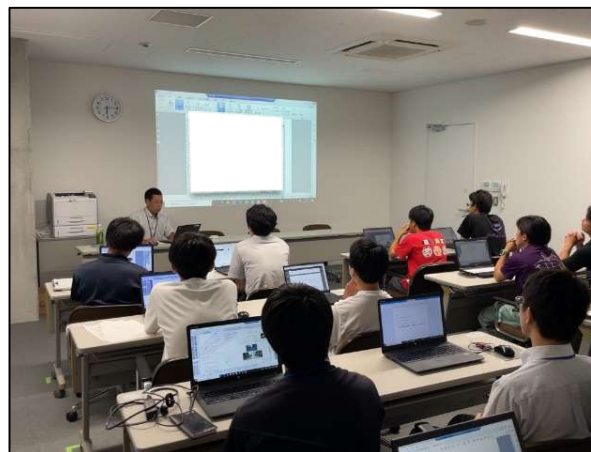
◆ 日向市独自の「自主研修グループ支援制度」を最大活用

- ・ 職員の自発的な学びを市が公式にバックアップ。
- ・ 職員が自発的に行う能力向上や課題解決への研修を後押しする公式制度
- ・ 若手職員が「学びたい」と思った時、部署や所属の壁を越えていつでも実践へと移せる「確かな土台」を構築。



◆ 「日向市土木技術研究会（ひむかどぼくらぼ）」

- ・ 令和7年9月に発足。20代～30代の若手・中堅の土木技術職員17名が参画。令和8年度は19名で活動中
- ・ 月1回のプライベート時間を用いて、自主的な勉強会を継続開催。
- ・ メンバー間の技術研鑽と役所の縦割り・垣根を越えた連携強化が目的。



勉強会の様子（市長参加）

② 自主研修グループを始めた目的

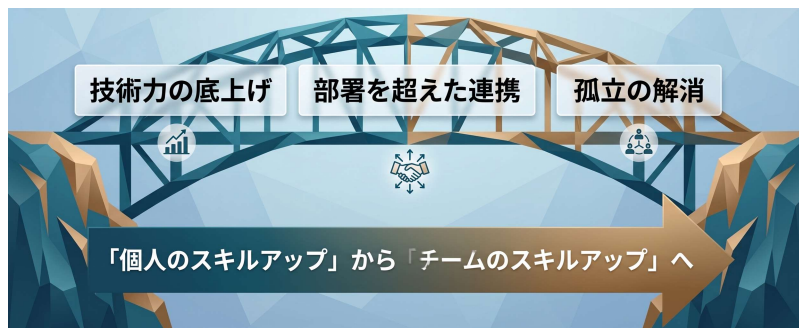
技術者不足に危機感を持ち、孤立した「孤島の住人」から脱却するための熱意が原点

《 小規模自治体を取り巻く「孤独な」現実 》

【技術職員の深刻な不足】 少数の土木技術職員で膨大なインフラを管理せねばならず、日々の通常業務と災害対応に忙殺される日々。

【技術伝承・蓄積の途絶】 職場に相談できる先輩や経験豊かな技術者がおらず、個々のノウハウが蓄積・伝承されない。

【自己研鑽の限界】 予算や時間にゆとりがなく、先端技術や資格取得に向けた勉強会を自力で開催する機会を持ってない。



《 事実上、「孤島の住人」と化す職員 》

組織の縦割りや人員の不足により、技術職員一人一人が周囲と繋がれず孤立している現状。

解決の糸口：「人の群マネ」

【能動的なスキルアップ】 組織の指示を待つのではなく、自らの「学びたい」という熱意で技術力向上を図る。

【所属の枠を越えた信頼】 課や部署の縦割りを完全に排し、いざという時に本音で相談し合える強固な「顔の見える関係」を築く。

【群マネの種まき】 個人間の信頼関係構築とノウハウの共有を、将来的な「群マネ」等の実現に繋げる。

- ☞ 他自治体等との連携より、まずは「内部（市）の連携強化」
- ☞ 「グループ」とした枠組みがあれば若手も相談しやすい環境を構築できる。
- ☞ これまでの職員間の関係性の再構築（部署の垣根を超えた連携）



④ 活動実績：外部講師による講演会

実務技術を超えて、若手技術者としての「志」と「誇り」を育む場の創出

《 講演会による誇りと意識の醸成 》

■ 目的

日々の多忙な業務に追われる中で、若手職員が「土木技術が持つ本来の力と可能性」を再認識し、将来に向けて自発的に歩み出すための強い活力を得る。若手の士気を爆発させたい。

■ 講師招聘

令和8年2月、外部講師として、私（米良）や若手メンバー数名が正会員でもある「一般社団法人行政エンジニア支援機構（そら糸）」の会長・松永昭吾氏を招聘

■ 演題

『「技術は裏切らない」一若手のための土木キャリア論ー』

■ 参加者

行政組織の垣根を越えて近隣自治体や民間企業から「約50名」が会場に集結。西村市長も同席。

■ 人の群マネの契機

情報共有を図り、若手土木職員の熱意に火をつける絶好の機会に（※本取組は「そら糸」のHPでも紹介）



講演会の様子

⑤ 活動実績：外部講師による技術研修会

官民の壁を越え、対等に学び合う強固な水平ネットワークの創出

《 堤副所長を招いた特別勉強会 》

■ 延岡河川国道事務所の堤副所長を招聘した特別技術研修会

令和8年6月、当地域を管轄する国の延岡河川国道事務所の堤副所長（技術士）を外部講師としてお招きし、日向市役所を会場に、若手技術者の資格取得意欲向上を目的とした技術研修会を企画・実施。アンケートの結果、資格取得意欲向上に成功。

■ TEC-FORCE予備隊員としての能動的な働きかけ

TEC-FORCE予備隊員であるという国との繋がりを最大限に活かし、中堅職員が直接「地域の技術力底上げのための協働」を幹部に願い出る、既存の枠に捉われない能動的なアプローチ。

■ 近隣自治体や民間技術者への呼びかけと官民41名の集結

単一市役所に留まらず、近隣市町村の職員や地元の民間若手技術者にも広く呼びかけ。官民関係なく「地域を守る土木技術者」として対等に学び合う、まさに『人の群マネ』の実践の場を日向市に創出

「個人」の連携から、持続可能な広域連携へ

この技術研修会を通じ、私たちが実践してきた個人間の繋がり（人の群マネ）が、将来の『近隣自治体との共同発注』や『広域的な点検協力』という「群マネ」を動かす上での極めて強固な土台（インフラ）になる。



👉 「人の群マネ」が「群マネ」の土台に

① 個人が繋ぐ「点」

自主研修グループ活動
勉強会

② 信頼を築く「線」

保育所点検、合同研修会
個人の繋がり「人の群マネ」

③ 組織が連携する「面」

顔の見える信頼で動く
将来的な共同発注・広域連携

『人の群マネは自由』

～小さな「人の繋がり」から踏み出すファーストステップ～